



ユネスコスクール便り

No.126

令和5年3月17日
大牟田市1社コスクール
担当者通信

つながりを大切にし、
かかわりを深める児童生徒の育成

各校の特色ある実践事例を紹介します！

14 有明海の魅力を発信しよう 天領小学校

天領小学校では、発達段階に応じて、「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を活用する」の4段階を設定した海洋教育を柱に、諏訪川や有明海に関する学習を行っています。6年生では、「海苔」「景観」「生き物」の3つのグループに分かれ、1年生から5年生までの5年間の学びをもとに、それぞれの視点から有明海の魅力発信を行いました。そして、下級生や保護者の方、地域の方を招いて「有明Sea Museum」と題し、楽しみながら見て回れるようにスタンプラリー形式の学習展示会を開きました。

「海苔」「生き物」グループは、有明海苔レシピや生物紹介の物語を考えて動画を作成し、QRコードを使って公開しました。「景観グループ」は、大牟田景観写真展受賞者の方々の写真を紹介したり、他県の人に有明海の印象についてアンケート調査をしたりしました。このように、子ども達は、広い視野で、自分で設定した課題の解決に向けて学びを深めています。



6年生によって開催された「有明Sea Museum」の様子

11 4年生「心のキャッチボール」 高取小学校

4年生は、「福祉教育」の観点から、大切にしている相手を思いやる気持ちについて学習しました。1・2学期は、地域で福祉用具を販売している「(株) Saita」さんに用意していただいた様々な車椅子に乗車し、介護する人、される人の気持ちを考えたり、オンラインで「延寿苑」や「米の山病院」の職員の方のお話を伺う機会を位置づけ、介護で工夫していることについて紹介していただいたりしました。これらの取組で子ども達が学んだのは、介護を要する方に寄り添った「個別支援の大切さ」です。3学期は、相手を大切に作る心を生かし、「世界に一つしかない さくら」の絵をみんなで協力して作り、延寿苑のみなさんにプレゼントしました。



みんなで作った「桜」の絵

14 竹を活用した環境保全 天の原小学校

6年生は、山・川・海の手がかりについて学習するために、校区の森林調査を行いました。すると、手入れされていない竹林が多くあり、土砂崩れの原因になったり、山の土壌に影響を及ぼしたりするのだとGTの方に教えていただきました。竹は昔から日本人の生活の中で活用されてきた素材ですが、近年はプラ製品に変わってきたため、竹の消費が減っているそうです。そこで、竹を伐採して手入れをするだけでなく、切った竹を活用して、割り箸や竹炭などに加工し、「竹書」ではなく「竹財」に考えを転換しようと、4校合同学習等で呼びかけ、山の環境保全について発信しました。



竹を使った道具作りに挑戦！

11 三池地区の環境を調べよう 三池小学校

5年生は、市役所の環境保全課の方々をゲストティーチャーとしてお招きして、堂面川の水質調査を行いました。学校の南側の陣屋眼鏡橋で汲んだ川の水を使って、透視度調査や生き物による水質調査、パックテストを行い、川の水がきれいな状態であることが分かりました。児童は、川が汚れる一番の原因は生活排水であることを知り、きれいな川を未来に残すために自分達に何ができるかを考えました。皿に残ったソースはきれいに拭き取ってから洗うことや、洗剤を使いすぎないことなどを家族と一緒に実践しています。



水質調査をする児童の様子

2 日本と海外をつなぐ 思いやりのかけ橋 白川小学校

白川小学校では、学校全体で「ペットボトルキャップ集め」に取り組んでいます。10月に、6年生はiSAP (International Support And Partnership for Health) のラオスのスタッフとZoom会議をしました。自分達の活動が海外の赤ちゃんの命やそのお母さんを助けることに繋がっていることや、保健施設の建て替え、看護師さんの人件費、食料やミルクを届ける活動に役立っていることを知ることができました。子ども達は、自分達の行動が一人でも多くの人の役に立つように、積極的に参加していきたいとの思いを強くしました。



児童のZOOM会議の様子